

令和 5 年度 学 校 総 合 評 価

6 今年度の重点目標に対する総合評価

今年度、5つの重点項目10指標のうち、目標に達成しなかった指標が2指標であった。昨年度も達成されていない項目が2指標であった。今年度も重点目標を設定する際に、昨年度の結果を十分に分析し方策等に反映させた。その結果、改善された指標は進路支援（進路希望実現率）、達成されなかった指標は学習活動（専門教科、農業・園芸関連の資格や検定の受検者数と取得資格数の増加と合格率の向上）、昨年から引き続き達成されなかった指標は学校生活（年間遅刻回数）であった。他の8つの指標については、当初の目的を達成できたか、おおむね達成できた。

学校生活では、今年度も粘り強い個別指導を継続して取り組んだが、特定の生徒や年次によつての温度差もあり目標達成には及ばなかった。しかし、多くの生徒は、遅刻や欠席が少なく今後の具体的方策の糸口が見えてきた。

学習活動（専門教科、農業・園芸関連の資格や検定の受検者数と取得資格数の増加と合格率の向上）は、達成目標の5割程度の結果に終わった。受検者数そのものが少なかったことに加え、合格者も少なかった。一方、農業高校生としてより重要と考えられている農業クラブ技術検定の受検者数や合格者数、小型作業系建設機械の作業免許の取得希望者数、取得者数は増加した。継続した授業等の環境作りや資格取得の重要性、資格取得の機会の創出を目指して取り組んだ成果が現れた結果と思われる。

学習活動（専門教科）では、生徒の農業学習の意欲向上を図るため、従来の農業・園芸関連の資格や検定に加えスマート農業について学ぶ機会を多く設け、生徒に学習意欲を喚起した。

本校は、多様な生徒に対する指導対策として、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、巡回指導員など外部機関との連携を密にし、教職員を対象とした特別支援教育学習会を開催するなどして、情報交換を積極的に行うことで教職員全体で取り組む体制作りを構築している。その効果が学校生活における基本的生活習慣の確立や後のキャリア教育等を柱とした進路指導の重点項目の目標達成に寄与している。

他の項目については、今回の課題に対する達成度を今後も維持し個々の生徒に適した、より具体的な取り組みが必要であると考ええる。これらのことから、今年度の総合評価は「B」とした。

7 次年度へ向けての課題と方策

- (1) 生徒の学習実態に合った個別指導を引き続き行い、生徒が学習に計画的・継続的に取り組む習慣を身につけさせることで学習への意欲を育む。
- (2) 授業改善を図り、生徒自らが達成感や自己肯定感を得られるような授業実践に努める。
- (3) 専門教科（農業関係）の資格取得や各種大会入賞のための指導の充実・改善を図るとともに、地域と連携した農業教育等地域貢献活動を推進する。
- (4) 常識ある社会人を育成するため、地域の人々と積極的に触れあう機会や地域貢献の機会を設け、ボランティア意識を高めるような活動を積極的に取り入れる。
- (5) 将来の社会的・職業的自立と進路希望実現率の維持向上のため、引き続きキャリア教育における指導内容と、新規活動の充実と改善に取り組むとともに、進路内定後の指導も継続的に行う。
- (6) 関係機関との連携を深め、生徒の学校生活がより円滑になるとともに、将来の進路決定につながるような支援を継続的に行う。

令和5 年度 小矢部園芸高等学校アクションプラン -1-		
重点項目	学習活動	
重点課題	基礎学力の向上と授業改善	
現 状	・学習の基礎となる「読む力」・「書く力」・「計算する力」が必ずしも十分ではない生徒がみられる。 ・学力や学習意欲の面で個人差が大きく、集中力が持続しにくい生徒もいる。 ・令和4年度入学生からは評価の観点が「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点となるので、評価の方針を教師と生徒が共有する必要がある。	
達成目標	①生徒の実情に応じた基礎学力の定着を測るために、ICT活用やユニバーサルデザイン化を推進する。また、新しい学習指導要領に基づく評価方法について情報を共有する。	②生徒の授業への満足度 80%以上
方 策	・情報交換会を通して、個々の生徒の授業態度や特性、支援方法などについて共通理解を深める。 ・ICT活用の研修会を通してICT活用やユニバーサルデザイン化を推進する。 ・研究授業懇談会、新学習指導要領に対応した学習評価情報交換会などを含め年間5回以上の研究会を開催する。	・生徒に授業や学習についてのアンケートを実施し、その結果を授業に生かす。 ・全教員の互見授業をとおして学習教材の精選や指導方法の工夫に努める。 ・参観した授業の感想や意見を授業担当者へ伝え、授業に生かす。 ・互見授業期間は保護者に授業を公開する。
達 成 度	60% (研究授業懇談会1回、教育課程委員会2回)	「授業は自分にとってプラスになっている」と回答した生徒=90%(5,12月とも) 「先生の説明はわかる」と回答した生徒=80(5月)→86%(12月)
具体的な取組状況	学校訪問による研究授業懇談会を行ったが、学習評価情報交換会はできなかった。 教育課程委員会は、新しくした教育課程の3年目となることから委員会は最低限度の2回しか行わなかった。ただし教育課程についての意見等もなかった。 生徒の多様化の中で、評価の素材はあるが生徒同士の相対的な評価をある程度含めると難しい部分もある	〈学習に関するアンケート調査〉 ・学習への取り組み、授業への満足感などに関するアンケート調査を実施した。調査結果を教員に伝え、授業にも反映いただくよう伝えた。 ・1年に2回程度実施しているので、回答割合の変化も見られた。 〈互見授業〉 ・6月と11月の2回設定している。教員同士互いの授業を見学し、指導方法の工夫に努めた。また保護者にも公開し、本校の教育活動の理解につながった。
評 価	B ・定期的な研究会は今後も必要であり、適切な回数を開催したい。	B ・アンケートによる授業の改善は今後も続けていきたい。 ・互見授業の実施、教員の研究授業、学校訪問などを通して、教員間で指導方法等の情報交換ができてよかった。
学校関係者の意見	・日頃からの実践が効果を上げており評価できる。 ・今後も生徒の実態に合わせ、丁寧な学習指導をお願いしたい。	
次年度へ向けての課題	研究会の開催が、その時間だけでも課題への意識を持って会合に望める。適度に開催するよう企画したい。	護者のみ案内している互見授業だが、中学校へも案内すればよいのかも

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成しなかった D:達成しなかった)

令和5年度 小矢部園芸高等学校アクションプラン - 2 -																																											
重点項目	学校生活・特別活動																																										
重点課題	基本的な生活習慣の確立及びボランティア活動の推進																																										
現 状	・時間を守る、物を大切にする、服装を整えるなどの学校生活を営む上で最低限度必要なきまりに対して自分の尺度で判断し、基本的な生活習慣が確立されていないまま、曖昧に過ごしている生徒が少なからず見受けられる。これまでの継続した指導のおかげで、生徒は少しずつ理解し、遅刻回数については一昨年度に初めて達成、大幅に改善されてきていた。しかし、昨年度は再び達成できなかったため、継続して指導していきたい。しかし、挨拶などの礼儀作法がきちんとできる生徒が減少しており、この点は継続して粘り強く指導する必要がある。 ・地域と密着したボランティア活動として、本校の特色をいかした花プランター配布、社会福祉施設などへの雪吊り・雪囲い等の緑地管理ボランティアを行なっている。しかし、生徒の希望進路に依るところがあるとはいえ、社会福祉施設での介護ボランティアなど福祉現場活動に携わる生徒はかなり少ない。 ・全校生徒で一斉に、継続して行っている「清掃美化活動」については、地域への貢献や奉仕の精神に関心を持たせる恒例行事として定着してきた。また、これまでの数値目標については、コロナ禍であっても常に達成されてきたので、目標数値を一人あたり0.5回さらに高く設定することとした。																																										
達成目標	① 年間遅刻回数	② ボランティア活動参加回数																																									
	全生徒で延べ100回以下	一人あたり3.0回以上																																									
方 策	・時間を守り、挨拶が自然に交わせるような学校の雰囲気づくりに努める。 ・登校時早朝指導を随時実施に切替え、個別指導に重点を置き、また遅刻防止と共に挨拶や服装指導も含め、声かけの機会を多く設け、習慣付けを図る。 ・全校生徒への積極的な呼びかけ、声かけと共に自治委員会を中心としたボランティア活動の積極的PRに努める。 ・各種研修会への積極的参加を促す。 ・地域に密着した環境美化整備活動の推進。																																										
達成度 1/22 現在	<table><tr><td>●総遅刻数</td><td>291回(①99②129③63)</td><td>●ボランティア活動参加者数</td><td>145名※(94名)</td></tr><tr><td>●全校生徒</td><td>47名</td><td>●生徒一人あたり活動参加数</td><td>約3.09回</td></tr><tr><td>●一人あたり</td><td>約6.19回</td><td></td><td></td></tr><tr><td>(過去データ)</td><td>(R3)</td><td>(R4)</td><td>(過去データ)</td></tr><tr><td>総遅刻数</td><td>49回</td><td>110回</td><td>参加数</td><td>101名(87名)</td><td>139名(90名)</td></tr><tr><td>全校生徒</td><td>(20・15・14)</td><td>(72・30・8)</td><td>一人あたり</td><td>約2.1回</td><td>約3.02回</td></tr><tr><td>一人あたり</td><td>48名</td><td>46名</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>約1.02回</td><td>約2.39回</td><td></td><td></td><td></td></tr></table> ()内は環境美化活動参加生徒数			●総遅刻数	291回(①99②129③63)	●ボランティア活動参加者数	145名※(94名)	●全校生徒	47名	●生徒一人あたり活動参加数	約3.09回	●一人あたり	約6.19回			(過去データ)	(R3)	(R4)	(過去データ)	総遅刻数	49回	110回	参加数	101名(87名)	139名(90名)	全校生徒	(20・15・14)	(72・30・8)	一人あたり	約2.1回	約3.02回	一人あたり	48名	46名					約1.02回	約2.39回			
●総遅刻数	291回(①99②129③63)	●ボランティア活動参加者数	145名※(94名)																																								
●全校生徒	47名	●生徒一人あたり活動参加数	約3.09回																																								
●一人あたり	約6.19回																																										
(過去データ)	(R3)	(R4)	(過去データ)																																								
総遅刻数	49回	110回	参加数	101名(87名)	139名(90名)																																						
全校生徒	(20・15・14)	(72・30・8)	一人あたり	約2.1回	約3.02回																																						
一人あたり	48名	46名																																									
	約1.02回	約2.39回																																									
具体的な 取組状況	<table><tr><td>(1) 全学年朝学習を実施(担任指導)</td><td>(1) 年に数回小矢部市、砺波市の公共施設にプランターを配置・植栽。(2名×4=8名)(6名×2=12名)</td></tr><tr><td>(2) 夏・秋のさわやか運動を通して校門指導を行い、遅刻防止の呼びかけ。</td><td>(2) 小矢部市内サマーボランティアスクールへ参加。(12名)</td></tr><tr><td>(3) 遅刻を繰り返す生徒に対する個別指導の実施。</td><td>(3) 老人ホーム清楽園での雪つり・雪囲いボランティア活動への参加。(0名+専攻科)</td></tr><tr><td>(4) 登校時早朝指導を随時実施。</td><td>(4) 生徒会を中心とした、全校生徒をあげた地域の環境美化活動の実施。(47名×2)</td></tr><tr><td>(5) 朝学習に遅れた生徒に対する個別指導の実施。(学年指導)</td><td>(5) 個人庭園への剪定、雪吊り・雪囲いボランティアの実施。(7+7+5=19名)()は参加数</td></tr></table>			(1) 全学年朝学習を実施(担任指導)	(1) 年に数回小矢部市、砺波市の公共施設にプランターを配置・植栽。(2名×4=8名)(6名×2=12名)	(2) 夏・秋のさわやか運動を通して校門指導を行い、遅刻防止の呼びかけ。	(2) 小矢部市内サマーボランティアスクールへ参加。(12名)	(3) 遅刻を繰り返す生徒に対する個別指導の実施。	(3) 老人ホーム清楽園での雪つり・雪囲いボランティア活動への参加。(0名+専攻科)	(4) 登校時早朝指導を随時実施。	(4) 生徒会を中心とした、全校生徒をあげた地域の環境美化活動の実施。(47名×2)	(5) 朝学習に遅れた生徒に対する個別指導の実施。(学年指導)	(5) 個人庭園への剪定、雪吊り・雪囲いボランティアの実施。(7+7+5=19名)()は参加数																														
(1) 全学年朝学習を実施(担任指導)	(1) 年に数回小矢部市、砺波市の公共施設にプランターを配置・植栽。(2名×4=8名)(6名×2=12名)																																										
(2) 夏・秋のさわやか運動を通して校門指導を行い、遅刻防止の呼びかけ。	(2) 小矢部市内サマーボランティアスクールへ参加。(12名)																																										
(3) 遅刻を繰り返す生徒に対する個別指導の実施。	(3) 老人ホーム清楽園での雪つり・雪囲いボランティア活動への参加。(0名+専攻科)																																										
(4) 登校時早朝指導を随時実施。	(4) 生徒会を中心とした、全校生徒をあげた地域の環境美化活動の実施。(47名×2)																																										
(5) 朝学習に遅れた生徒に対する個別指導の実施。(学年指導)	(5) 個人庭園への剪定、雪吊り・雪囲いボランティアの実施。(7+7+5=19名)()は参加数																																										
評 価	C	A	今年度も全学年で朝学習や登校指導、挨拶運動など特別に行っている。生徒数が減少、総遅刻数も減っていたが、昨年度から増えてきており、今年度はかなり増加した。また、学年により温度差が出ている。各学年に、特に1～2年次の特定生徒が遅刻を繰り返した事などから、大きく増えた。																																								
学校関係者の意見	大きなカウント数となる全校清掃美化運動は予備日の設定もあり、2回とも安定して実施できている。また、多くの活動が再開されてきたこともあり、ハードルを上げたにもかかわらず目標数値をクリアすることができた。																																										
次年度へ向けての課題	・特定生徒の遅刻が多いようであるが、粘り強く指導して欲しい。 ・様々なボランティア活動を通して、生徒を育てて欲しい。 効果的と思われる朝学習、登校指導や挨拶運動の実施などを今後も継続して行い、粘り強く指導していきたい。また、繰り返す生徒など特定のメンタル面に理由がある生徒については、カウンセリング的な機会を多く設けるなど複合的なアプローチを考えていきたい。 清掃美化活動は天候に左右されるため、予備日を設定してからは、安定して実施できている。目標数値を上げたにもかかわらず、それでもクリアできた。このことから充分、一定のボランティア参加率があるので、今後はさらに目標数値を上げるなどのステップアップしていきたい。																																										

(評価基準 A: 達成した B: ほぼ達成した C: あまり達成しなかった D: 達成しなかった)

令和5年度 小矢部園芸高等学校アクションプラン - 3 -		
重点項目	進路支援	
重点課題	進路意識の向上と進路実現に必要な能力の育成	
現 状	・将来の進路に対する意識が漠然としており、具体的な将来像を描いたり、目標を設定したりすることに困難を感じる生徒がいる。 ・基礎学力の定着が不十分な生徒や、基本的な学習習慣が確立していないため、進路実現に必要な技能が身につけていない生徒がいる。 ・コミュニケーション能力等、社会人として必要な基本的能力が不十分である。	
達成目標	①個人面接の実施回数 生徒1人当たりの年間実施回数	②進路希望実現率 対象は進学及び就職を希望する生徒
	1・2年次生 5回以上 3年次生 10回以上	100%
方 策	・個別面接の機会を増やし進路意識の高揚を図るとともに、望ましい人生観や職業観を身につけさせる。 ・日頃の授業を大切に、基本的な礼儀の定着と、基礎学力の向上に努めさせ、適切な進路選択を支援する。 ・進路特別講座、企業訪問、学校見学を通し、具体的に進路先について考えさせる。 ・個別指導（面接、小論文、作文指導等）を通して、進路実現に向けた適切な指導を行う。 ・就職支援機関・保護者との連携を図る。	
達 成 度	100%	100%
具体的な取組状況	○外部講師による進路講演会を2回（6月・11月）実施し、進路意識の高揚を図った。 ○校長・教頭・進路指導主事による個別面接指導を実施した。 ○2年次生を対象に、校務運営委員による面接指導を実施した。 ○「進路ノート」を進路指導部で作成し、それに沿った進路指導を実施して、年次ごとの段階的な進路意識の育成に努めた。 ○求人票の見方、面接時のマナーなどについて、ホームルーム時に指導した。 ○進路特別指導期間中（7月～8月）に3年次関係者と校務運営委員で個別面接指導を実施し、履歴書・面接についてきめ細かく指導した。 ○「面接対策ノート」を進路指導部で作成し、継続的で一貫性のある面接指導に役立てた。 ○専攻科生に面接指導を依頼し、3年次生に対する、企業目線での面接指導を実施した。	
評 価	B ・1・2年次生の多くが、卒業後の進路について検討し、具体的な進路目標を持つよう努めている。	A ・3年次関係者をはじめ、教職員、保護者の協力で、3年次生すべての進路希望が実現した。
学 校 関 係 者 の 意 見	・農業高校として、小数ではあるが農業法人への就職者がいる状況を、今後も継続してほしい。 ・4年制大学などへの進学も充実するとよい。 ・今後もキャリア教育を充実させてほしい。	
次年度へ向けての課題	・各年次担当者と進路指導部とで協議して、生徒に持たせたい進路意識について共通理解を図りたい。	・情報収集に努めたい。 ・年次に沿って、段階的な進路指導を勧めていきたい。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：あまり達成しなかった D：達成しなかった)

令和 5 年度 小矢部園芸高等学校アクションプラン - 4 -		
重点項目	学校生活	
重点課題	基本的生活習慣・教育相談	
現 状	・家庭環境や友人関係などさまざまな悩みを抱えていることで、身体の不調や心の不安定を訴えたり、スマートフォンやゲームの長時間使用などで基本的生活習慣が乱れていたりする生徒が多く見受けられる。 ・専門家の支援を要する生徒が複数いる一方で全教職員で指導支援をする体制がまだ十分に確立されていない。	
達成目標	①生徒保健委員会活動などを通して、生徒の健康や環境美化意識の向上を図る。 ・生活調査を実施し、改善が必要な生徒に保健指導を行い基本的生活習慣を整える。また保健だよりの定期発行や掲示物等で健康への関心や知識の向上を図る。年 10 回以上たより等の発行（保護者に向けたよりを含む）	②カウンセラーや特別支援巡回指導員の面談指導を充実させることで、生徒の心の成長を図る。 ・スクールカウンセラーや巡回指導員による面談の実施後に、当該生徒、保護者等に対して、満足度をインタビュー形式で調査する。 満足度 70% 以上
方 策	・機会をとらえて、人間関係づくり、身だしなみや生活習慣など心身に関わるテーマで、グループ指導や個別指導を実施する。 ・健康に関わる情報を発信し、生徒の基本的生活習慣の確立を目指すとともに保護者への理解と協力を得る。	・スクールカウンセラーや特別支援巡回指導員の助言を参考に、教職員と家庭の連携を深め、適切な支援を行う。 ・職員会議後定期的に教育相談連絡会（年 6 回程度）を実施し、全職員の共通理解を図る。
達成度	100%（10回以上実施）	満足度 80%
具 体 的 な 取 組 状 況	◎定期的に生徒保健委員会を実施し、活動を充実させ、健康に関する生徒の意識を高める。 【生徒保健委員会の活動内容】 ・健康診断時の補助 ・学校行事における救護係 ・環境美化活動 清掃点検表の貼り替えと点検 トイレの環境整備 ・感染症予防に関する活動 （教室の換気、うがい、手洗いの励行） ・毎月廊下の壁面作り、ポスター作り	(1) 教育相談連絡会（職員） 4 月 5 月 7 月 9 月 11 月 1 月 生徒の様子や指導上の問題点などについて協議 (2) スクールカウンセラーによる教育相談 スクールカウンセラー 臨床心理士 山本隆紫氏 生徒 12 名 保護者 1 名 教職員 1 名 （実施延べ 28 名） (3) 巡回指導員 清水克人氏による面談指導 （年 10 回） 生徒 22 名 教員延べ 48 名 授業参観など (4) 教職員対象の学習会、研修会 公認心理師 水野薫氏 館野智子氏
評 価	A ・定期的な委員会活動は定着し、健康に対する関心も少しずつ意識が向上し、意欲的に活動する委員が増えた。	A ・教育相談連絡会を継続して開会し、職員の共通理解が図ることができた。 ・特別支援を必要とする生徒の支援のために、スクールカウンセラーや巡回指導員と連携を図り、具体的な助言や指導を受けることができた。
学 校 関 係 者 の 意 見	・生徒たちの人間関係によるトラブルが心配なので、目配りをお願いしたい。	
次 年 度 へ の 課 題	・生徒保健委員会活動を通して、生徒の健康や環境美化意識の向上を図る。	・カウンセラーや特別支援員の意見を生かし、生徒について様々な情報の把握と共有化を図る。そして、個々に応じた適切な指導のための研修を充実させ、生徒の心の成長に役立てる。

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：あまり達成しなかった D：達成しなかった）

令和5年度 小矢部園芸高等学校アクションプラン - 5 -		
重点項目	学習活動（専門教科）	
重点課題	農業学習の意欲向上	
現 状	・資格・検定に興味や関心を持つ生徒が減少傾向にある。 ・農業クラブ農業技術検定、危険物取扱者試験、造園技能士（3級）等の資格取得の取り組みと授業との連携が希薄である。 ・農業教科に興味や関心の低い生徒がいる。	
達成目標	①農業・園芸関連の資格や検定の受験者数と取得資格数の増加と合格率の向上。 ②県内委託実習（インターンシップ）や校外での農業に関する体験者（販売実習や造園ボランティアなど）の増加。	
	・危険物資格取得 延べ2名以上 ・造園技能士 3名以上 ・農業クラブ技術検定 延べ30名以上 ・農業クラブ県大会入賞 2名以上 ・農業クラブ全国大会入賞 2名以上	・県内委託実習 2名以上 ・就農青年育成懇談会 10名以上 ・中学校、商店街等の販売実習 2回以上 ・県農教振本部事業 3名以上 ・その他ボランティア活動延べ30名以上
方 策	・資格取得の必要性を説き、受験意欲を高める。 ・年間の資格・検定取得について示し、計画を立て学習させる。 ・教科内実習・農業クラブ活動・補習等と連動させて計画的に指導する。	
達成度	50%	
具体的な取組状況	・造園技能士2級 ・造園技能士3級（後期1名結果待ち） ・農業クラブ技術検定 17名（受験者数31名） ・農業クラブ県大会入賞 該当なし ・農業クラブ全国大会入賞 該当なし ◎生徒に検定の受験案内と参考図書の斡旋を実施した。また、本科に関しては造園技能士や農業クラブ技術検定や情報処理検定のみ授業内で取り組まれた。	
	※県内委託実習 未定（3月下旬参加予定） （R4年度：6名参加） ・就農青年育成懇談会 4名 ・中学校、商店街等の販売実習 5回 ・県農教振本部事業 3名（緑の学園3月22～23日1年生参加予定） ・その他ボランティア活動延べ 約37名 ◎就農育成懇談会や販売実習の参加、緑の学園など実践的・体験的な活動を通して、少しでも就農意欲を高めるため取り組んできた。これらのことは新聞等に掲載され注目を浴びた。	
評 価	C ・達成目標の5割程度の結果に終わった。放課後の補習で日本農業技術検定の合格者数が増えた。他の資格受験者を増やして授業や補習等で取り組める環境にしたい。	B ・就農育成懇談会への参加は、日頃から学習に取り組んでいるため、参加者は昨年より参加生徒は意欲的である。公共施設への販売実習や近隣の中学校、メルヘン屋市での販売実習を行って生徒に活躍の場があって大きな自信につながっている。
学 校 関 係 者 の 意 見	・農作物の農薬散布など、産業用農業機械（ドローン）を生かしてもらいたい。 ・将来の担い手を図るためには、スマート農業等の機械・設備の導入が今後必要となる。	
次年度へ向けての課題	・授業や補習体制を図りたい。また、多く取得した生徒を表彰し取得意欲を高めたい。 ・今年度は、スマート農業研修を企画した。今後も先進的な技術を施設見学し、地域の農業を学ぶためにも継続して研修の機会を設け実践できるようにしていきたい。	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：あまり達成しなかった D：達成しなかった）